

故中川博士を憶ふ

澁谷生

佛語に……生者必滅……と云ふ言葉がある。即ち宇宙萬物生あるものは必ず滅すと云ふ眞理を喝破したものである。さり乍ら人の滅するまた哀し。

前の内務技監中川吉造博士は我が最高學府に學び、然る後官界に在つて技術に一身を投じて、或は治水に或は河川に或は海邊に或は道路に各般の土木專業に貢獻するところ偉大であつたことは何人と雖も首肯する所である。

博士は道路改良會の副會長に擧げられ、尙ほ港灣協會副會長、及河川協會副會長ともなられた。其の他公私の公益團體即ち都市計畫委員會委員都市計畫、東京地方委員會委員、大堰堤國際委員會日本國內委員會委員長、土木會議議員、内閣調査局専門委員、中央防空委員會委員、交通調整委員會委員、及滿洲國交通、海關託在鐵路司辦事、水力電氣建設局技術委員並に朝鮮治水調査委員會

委員、朝鮮土木專業に關する事務、鴨綠江水力發電開發委員會、鴨綠江水力發電開發委員會堰堤技術委員會囑託の外、日本動力協會理事土木會用語調査常設委員會委員長、東亞技術聯盟理事、林政研究會理事、東亞研究所調査委員會等に關與せられた。彼の利根川の治水工事に最も力を竭され、氏の半生の蘊蓄と心血を注いだ。横利根の閘門に付いて博士論文を提出し工學博士の學位を得られたのも故なきことでは。博士は各種の土木專業に關し其の豐富なる學殖と技術上の識見と多年の經驗とを以て斯界に寄與する所絶大であつた。昭和十四年には錦雞間祇候を仰付けられたる光榮に浴した。今や此の卓絶せる技術家は掩然として永く涅槃の雲にかくれたのである。茲に博士の生前の功績を偲び深く哀悼の念を禁ずるを得ないのである、嗚呼。